

## 相良病院「ココロとカラダのサポートセンター」

レポート By 山崎多賀子 (美容ジャーナリスト・NPO 法人キャンサーリボンズ理事)

住所：〒892 - 0833 鹿児島県鹿児島市松原町 3 の 31

電話番号：099-225-8588

鹿児島県にある相良病院は、“女性のための専門病院”の名にふさわしく、県内の乳がん患者の約 8 割が治療を受けており、乳がん診療において高い実績をあげている病院です。早くからマンモグラフィや超音波の検診バスを所有し、検診の啓蒙への取り組みや、最近では遺伝相談外来や、リンパ浮腫外来を開設するなど、一歩先の医療も積極的に取り入れています。



屋上庭園からは桜島が見える

会員それぞれの得意分野を持ち寄ったボランティアで、お裁縫の時間やネイルの時間、手作りのグッズの販売など、楽しいメニューも豊富です。また、奥のスペースではヨーガの療法士による無料のヨーガレッスンやストレッチも定期的に行われています。呼吸法を習うことで、心に平安を取り戻そうという取り組みです。



院内に医療用ウィッグを扱うスヴェンソンがある

さてこの院内の一階には、治療以外の時間に、外来、入院患者が気軽に立ち寄ることができる「ココロとカラダのサポートセンター」という広いスペースが設けられ、立派に機能しています。このスペースは、20 年以上前に立ち上げられた、乳がん体験者のつどい「いずみ」(現在も会員数は約千人)の拠点にもなっており、乳がん経験者が常駐しています。治療で大きな不安を抱えている患者たちにとって、いつでも気軽に話を聞いてくれる病気の先輩がいることは、なんと心強いことでしょう。



広いスペースのリボンズハウス「ココロとカラダのサポートセンター」

このスペースの一角には、ウィッグメーカーのスヴェンソンが入っており、抗がん剤治療を受ける女性たちは通院ついでや入院中に立ち寄り、ウィッグの相談はもとより、脱毛への精神的な不安をやわらげる場にもなっているようです。

サポートセンターの一切を取り仕切る相良正子常務は「すべては患者さんのために。治療以外でも患者さんの QOL を上げるために必要だと思うことは、躊躇せずに可能な限り取り入れていきたい」とおっしゃいます。その言葉どおり、患者が快適に過ごすための心配りが院内の随所に感じられます。ある入院中の患者さんが「ここの病院食は季節感があって、お料理やさんのように美味しいの」と笑顔でおっしゃっていたのが印象的でした。

確かに、他の病院とちがって、ほとんどが乳がん患者という特殊性があり、それゆえ病院と患者やそ

他のサポーターたちが一丸となりやすい、ということはありません。しかし、全国の医療機関や医療従事者が見学に訪れることから分かるように、このセンターには、“病院は治療をする場”という考えから一歩すすんだ、日本の医療機関の未来のあり方として、お手本にすべきところがたくさん見受けられます。

患者の生活や不安を積極的に支えるという、サポートセンターの取り組みや理念は、まさにリボンズハウスの目指すところと合致しています。

そしてこのサポートセンターもリボンズハウスの看板が掲げられ、今後はキャンサーリボンズとも力強いパートナーとして連携をとっていくことになりました。



リボンズハウスを認定する楯